地球温暖化問題に取り組む人のための通信です。実践活動への意欲を、アイデアを、仲間同士の関係を、ホットに温めます！

うぉーみんぐ

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信

No.52 春

京丹後市にてCOOL CHOICE啓発（関連記事P.5）

京都再エネコンシェルジュが認証されました（関連記事P.7）

推進員研修を行いました（関連記事P.7）

contents

2・3 特集
温暖化対策は一石二鳥!?
-キーワードは「コベネフィット」-

4・5 速報
給湯設備の省エネに関するアンケート[結果報告]

6 第7期
地球温暖化防止活動推進員府内各地で活躍中！part13
東日本大震災後、
再生可能エネルギーを地域に広げる活動実践中

7 活動レポート
「□□□×低炭素×地域協働」をテーマに平成28年度第3回京都府地球温暖化防止活動推進員研修を実施
京都再エネコンシェルジュ、認証されました！
2016年秋・カエデ紅葉日調査の結果をご報告します

8 新しい掛け軸できました！
貸出できます。ぜひご活用ください。

京都府地球温暖化防止活動推進センター
Kyoto Center for Climate Actions

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成 15 年 10 月 10 日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げた NPO 法人　京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。

温暖化対策は一石二鳥!?
-キーワードは「コベネフィット」-

亀岡カーボンマイナスプロジェクトに見る「一石二鳥」

1月14日（土）と15日（日）に開催した京都府地球温暖化防止活動推進員研修では、「亀岡カーボンマイナスプロジェクト」について、亀岡市生涯学習部長の田中秀門氏からお話を伺いました。

亀岡カーボンマイナスプロジェクトは、放置竹林の整備で出た竹を炭化して土壌改良材として畑で使用し、収穫した野菜をブランド化して地元で販売するプロジェクト。大気中のCO_2を土中に固定する効果、及び地産地消によりフードマイレージCO_2を削減する効果が期待できます。生産された野菜は、地元スーパー等で販売されており、売上は年々増加しています。野菜には、「クルベジ」のシールが貼られており、協賛企業の名前が記載されています。シール1枚あたり20円の協賛金が京都の企業から提供されており、これが生産者に支払われる付加価値として、あるいはプロジェクトの運営経費として活用されています。この仕組みによって、このブランド野菜は通常の野菜と同等の価格で販売することができているのです。近年では、クルベジ米を使ったお酒づくりやソーラーシェアリング（※）も開始され、取組はどんどん発展しています。

この取組は、地球温暖化対策以外に、下のような様々な便益を地元にもたらしています。

- **地元農業の活性化、京都府トップクラスの農地面積の活用**
- **協賛企業の認知度及び好感度アップ**
- **地元から流出していたお金の地元での循環**
- **地元市民への手軽な環境配慮行動の選択肢の提供**
- **生産者と消費者、支援企業、支援大学等のネットワークの拡充**
- **地元に愛着と誇りを持つ人材（とくに若者）の育成**

図：研修会での田中氏講演資料より

田中氏は、「亀岡での消費支出のうち800億円が地域外に流出している。これを1%でも地元に留めることができれば8億円の地元消費が生まれる」「だれかがガマンを強いられるプロジェクトは続かない。Win-Winになる仕組みを作る必要がある」「他分野が連携してこそ地域課題の解決につながる」などと語ります。亀岡カーボンマイナスプロジェクトは、「一石二鳥」どころか、一石何鳥をも狙ったものなのです。

（※）農地の上に隙間を開けて太陽光発電パネルを設置し、下では作物を育てることで、発電と農業を同時に行う取組

いろいろある、「一石二鳥」の取組

「一石二鳥」の温暖化対策は、例えば下のようなものが考えられます。もちろん、これ以外にも考えればいくらでも出てくるでしょう。

「健康」×「温暖化対策」

ヒートショック（住宅内が寒く温度差があることによって血圧が急激に上下動する現象）による死亡者数は少なく見積もっても年間17,000人以上。高断熱住宅の普及は、省エネだけでなく、命と健康を守る家の普及でもあります。

「福祉」×「温暖化対策」

所得が低い世帯ほど支出に占めるエネルギー費の割合が高いことがわかっています。低所得者や高齢者の省エネ支援は生活そのものの支援でもあり、ドイツ等ではこの視点でのプロジェクトが広がっています。（うぉーみんぐ50号P.5参照）

「地域経済」×「温暖化対策」

日本の化石燃料輸入額は年間18兆円（一人あたり約14万円）にものぼります。食べ物の地産地消、住宅の断熱化、再生可能エネルギーの普及等により、産油国に払っていたお金を地元に払うことは、地元経済活性化につながります。

コベネフィット（≒一石二鳥）が地域の温暖化対策の柱に

現在、環境省において「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定マニュアル」の作成が進められており、3月10日現在、検討委員会資料という形で現段階での案が公開されています。

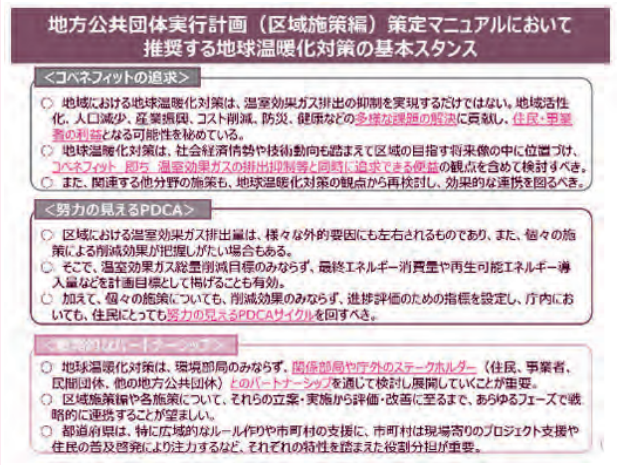
詳しくはこちら

地方公共団体実行計画（区域施策編）策定マニュアルに関する検討会

http://www.env.go.jp/policy/kihon_keikaku/sakutei/com.html

「地方公共団体実行計画（区域施策編）」は、区域における温室効果ガスの排出の抑制等のための施策をまとめたもの。中核市（人口20万人）以上の自治体には策定が義務付けられており、小規模な自治体も策定に務めるよう求められています。「地方公共団体実行計画（区域施策編）」は、その地域に関わる全ての人の暮らし・仕事に関わる計画ですから、多くの人がその内容に注目し積極的に関わることが望まれます。

さて、この「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定マニュアル（本編）の概要案」を見ると、最初に出てくるのが「コベネフィット」という言葉です。「コ」は2つの組み合わせ、「ベネフィット」は便益を表す言葉。つまりは「一石二鳥」と捉えればよいのではないでしょうか。概要案には「地域における地球温暖化対策は、温室効果ガス排出の抑制を実現するだけではない。地域活性化、人口減少、産業振興、コスト削減、防災、健康などの多様な課題の解決に貢献し、住民・事業者の利益となる可能性を秘めている」と記載されています。


地方公共団体実行計画（区域施策編）策定マニュアルにおいて推奨する地球温暖化対策の基本スタンス

<コベネフィットの追求>

○ 地域における地球温暖化対策は、温室効果ガス排出の抑制を実現するだけではない。地域活性化、人口減少、産業振興、コスト削減、防災、健康などの多様な課題の解決に貢献し、住民・事業者の利益となる可能性を秘めている。

○ 地球温暖化対策は、社会経済情勢や技術動向も踏まえて区域の目指す将来像の中に位置づけ、コベネフィット（即ち、温室効果ガスの排出抑制等と同時に追求できる便益）の観点を含めて検討すべき。

○ また、関連する他分野の施策も、地球温暖化対策の観点から再検討し、効果的な連携を図るべき。

<努力の見えるPDCA>

○ 区域における温室効果ガス排出量は、様々な外的要因にも左右されるものであり、また、個々の施策による削減効果が把握しがたい場合もある。

○ そこで、温室効果ガス総量削減目標のみならず、最終エネルギー消費量や再生可能エネルギー導入量などを計画目標として掲げることも有効。

○ 加えて、個々の施策についても、削減効果のみならず、進捗評価のための指標を設定し、庁内においても、住民にとっても努力の見えるPDCAサイクルを回すべき。

<連携のパートナーシップ>

○ 地球温暖化対策は、環境部局のみならず、関係部局や庁外のステークホルダー（住民、事業者、民間団体、他の地方公共団体）とのパートナーシップを通じて検討し展開していくことが重要。

○ 区域施策編や各施策について、それらの立案・実施から評価・改善に至るまで、あらゆるフェーズで戦略的に連携することが望ましい。

○ 都道府県は、特に広域的なルール作りや市町村の支援に、市町村は現場寄りのプロジェクト支援や住民の普及啓発により注力するなど、それぞれの特性を踏まえた役割分担が重要。

図：地方公共団体実行計画（区域施策編）策定マニュアル（本編）の概要案より

これまでなんとなく思い描いていた「地球温暖化防止活動」のイメージにとらわれること無く、「豊かな住みよい地域づくり」を考えることこそが、これから地球温暖化対策＝脱炭素型社会づくりに必要だと言えそうです。コベネフィットは、行政の環境部局だけで実現できるものではありません。行政の全ての部局、地域産業や自治活動の担い手が連携してこそ実現できるものです。今後、京都府内様々な市町村で、実行計画区域施策編の策定・改定作業が行われることになります。多くの人の参加のもとでコベネフィットを盛り込んだ計画を作り、地域全体の力でこれを実現していきましょう。

速報

給湯設備の省エネに関するアンケート［結果報告］

当センターでは従来より「給湯の省エネ対策」についての情報発信を行っております。

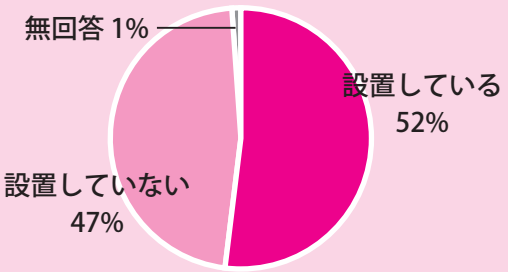
今年1月に、大浴場等の施設を所有されている京都府内の宿泊施設・公衆浴場のみなさまを対象として「給湯設備の省エネに関するアンケート」を実施いたしました。その結果の一部をご紹介します。

- 調査期間　2017年1月12日～1月31日
- 調査対象　京都府内の宿泊施設・公衆浴場（569カ所）
- 有効回答　94
- 実施機関　京都府地球温暖化防止活動推進センター

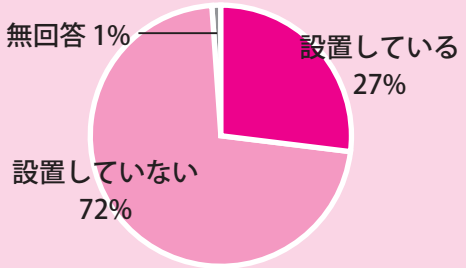
1 節水シャワーヘッド・節水アダプター（※1）の設置状況

（※1）シャワーヘッドとホースの間に取り付けることで節水効果を得ることができるものです。

● 節水シャワーヘッド設置割合

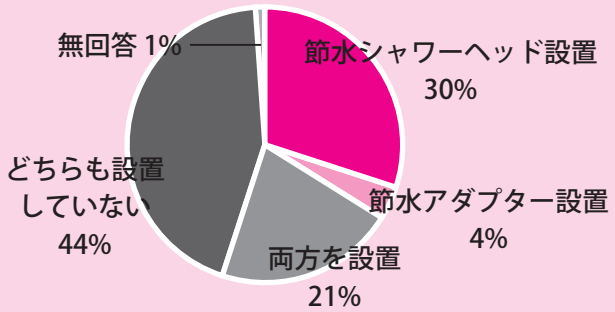


● 節水アダプター設置割合

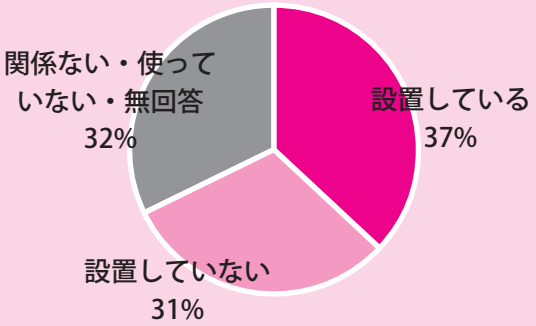


節水シャワーヘッドと節水アダプター両方を設置しておられる施設は21%でした。

55%の施設で、節水のためのグッズを使用されていました。

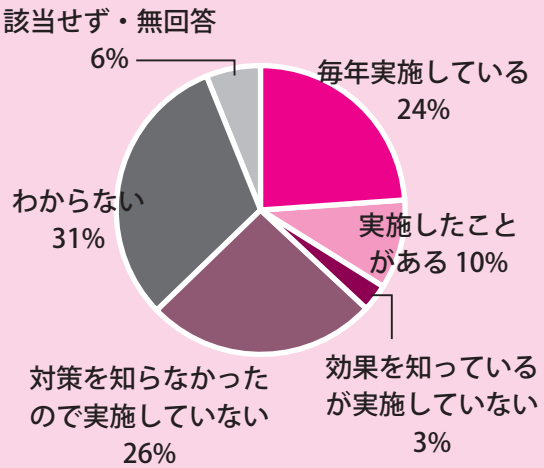


2 節湯型シングルレバーの設置状況

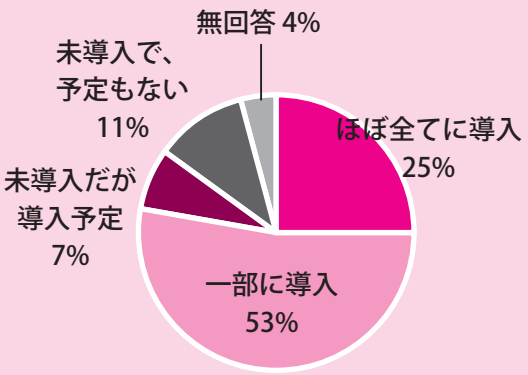


3 ボイラーの空気比の最適化（※2）

（※2）ボイラーの空気比を最適なバランスに調整すると、燃焼効率が良くなり、無駄なエネルギー消費が抑えられます。



4
LED等の省エネ照明器具の導入割合



5
実施している省エネ策等（自由回答）

- 電力使用量、空調、給湯の見える化システム導入により省エネ推進している（宿泊施設）。
- 照明設備の LED 化を今後も進めて行く（宿泊施設）。
- エアコンの電源とルームキーを連動している（宿泊施設）。
- 薪ストーブの導入を行った。その為、暖房設備の燃料、石油・電気料金の削減ができた（宿泊施設）。
- 夜間、大浴場に市販のカーペットの下に敷くアルミの保温シートを敷きつめております。かなりの重油節約につながっています。

給湯の省エネについて積極的に取り組んでおられる施設も多いですが、更新費用等の問題もあるためか、さらなる省エネの余地もあるようです。

省エネ対策をすることで水光熱費削減になり明らかに投資回収ができるものは、ぜひ実施いただきたいと改めて感じました。また、多額の費用が必要なボイラー等の設備についても、取替・更新が必要な時期には、高効率のものや木質バイオマス利用をご検討いただける施設が増えればと思います。

調査にご協力してくださった各施設のみなさまには御礼申し上げます

この調査は、平成28年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（地域における地球温暖化防止活動促進事業）の一環で行いました。

温泉施設を体験・啓発の場に！@京丹後市

report

京丹後市は、環境省からの補助を受けて、地球温暖化防止のための国民運動「COOL CHOICE」の啓発事業を実施してきました。その一環で、温泉施設での「お湯に関する省エネ」の啓発プロジェクトを実施。当センターもその実施をお手伝いさせていただきました。

このプロジェクトのポイントは、①温暖化問題に関心がない人も含めた多くの人が集まる場所を啓発の場にしたこと、②情報を伝えるだけではなく節水シャワーヘッドを体験できる場を設けたことの2点です。

協力してくださったのは、宇川温泉よし野の里、弥栄あしぎぬ温泉、浅茂川温泉静の里の3施設。2週間の間、脱衣室に展示物を掲出し、お湯の省エネに関する情報を、クイズなどを交えて紹介。洗い場には「節水シャワー体験コーナー」を設け、節水型シャワーヘッド2種（細いお湯を出すタイプと、空気とお湯を混ぜて出すタイプ）を取り付けて実際に浴びてもらえるようにし、耐水性シールで情報を発信しました。体験コーナーでは、シャワーヘッドを浴び比べて「私はこっちの方がええわー」などと会話する来場者の姿が見られました。またCOOL CHOICE宣言用紙兼アンケート調査用紙の記入を呼びかけました。また、浅茂川温泉静の里と弥栄あしぎぬ温泉では、それぞれ1日ずつ店頭啓発日を設け、ブースを出展して様々な展示物や節水型シャワーヘッドを展示して情報を発信しました。

期間中（2週間）の入浴者数は3施設合計で延べ8,926人。多くの人に情報を伝えることができました。

写真（上から）：ブース出展の様子、展示の様子、アンケートの実施、脱衣室への展示

東日本大震災後、再生可能エネルギーを地域に広げる活動実践中

古家野（こやの）辰也さん（城陽市）

2017年1月の京都府地球温暖化防止活動推進員(以下推進員)研修の南部会場で活動報告して下さった古家野（こやの）辰也さんは、第7期から推進員として活躍しています。城陽市を中心に活動しているNPO法人市民共同発電をひろげる城陽の会の事務局長でもある古家野さんに、活動についてお話しを伺いました。

市民共同で太陽光発電の拠点を増やす

2011年3月11日に起こった東日本大震災の10か月後の1月、城陽市ではエネルギーについて考える講演会が行われ、240名もの方が集まりました。その講演会で再生可能エネルギーの普及の必要性を痛感した古家野さん。何回か再生可能エネルギーによる発電事業を考える学習会や懇談会を重ねるうちに行政や学校関係、民間会社の退職者等が共に新しい団体を立ち上げる動きとなりました。「ちょうど定年を迎え、再雇用で仕事を続けようかな、と思っていた時期でした。この講演会を聞いて仕事は辞め、これからは再生可能エネルギーを地域で広げる活動に専念しよう」と決意をされたそうです。

しかし、新しく活動を起こすには、苦労が伴います。「団体を立ち上げ市民共同で発電所を設置する仕組みを作るのは、細かい作業や書類づくり、資金集めや資金の返済実務など作業が多くて本当に大変でした。また、設置場所を決める過程でもずいぶん苦労しました。」と古家野さんは振り返ります。

第1号機太陽光発電所が完成

最初は、市役所や教育施設などの公共施設や店舗の屋根などに太陽光パネルを付けられないかとあちらこちらで相談したのですが、なかなか「ここ」というところに出会うことができませんでした。そこで個人宅などに太陽光を付ける「個人宅おひさま発電ゼロ円システム」という方式での市民共同発電所の設置を目指すことに。この仕組みは長野県飯田市の事例を参考にしたそうです。

そして、2013年11月に1号機の設置が実現しました。「1号機に手を挙げてくれる人が現れ、資金もあっという間に集まったんです。」と当時を思い出して古家野さんは嬉しそうに話します。その後2016年11月には10号機まで設置することができました。

勉強会を通じて省エネ・節電活動にも着手！

古家野さんの所属する団体では、太陽光発電所設置と並行して、年に何回か再生可能エネルギーや省エネ・節電について勉強会も定期的に開催しています。昨年は、地中熱利用や電力自由化、家庭でできる省エネについても学びました。この勉強会開催はメンバーで推進員でもある杉浦喜代一さんがリーダーとなり、開催にかかる準備や実施などを引っ張ります。メンバー同士でうまく役割分担をして、1年の活動を実りあるものにさせています。

太陽光発電以外の再生可能エネルギーの可能性を探る

今後の活動については、「これまでの活動でのような太陽光発電普及だけでなく、水力、風力、バイオマスなどの他の再生可能エネルギーの可能性についても模索したい。」とのこと。今年も講演会、エコライフ診断、出前学習会、勉強会も実施する予定です。「家内にええかげんにしてや言われているのですが」、と笑う古家野さんですが、これからも仲間のメンバーとともに活動を続ける意気込みを感じさせられました。

1

2

3

［ 写真 ］

1 会の代表の土居さん（左）、理事の杉浦さん（右）とともに

2 点灯式1号機4.56kW城陽市寺田深谷（2013/11/5）

3 節水型シャワーヘッドお勧め中です。城陽さんさんフェスタ会場にて（2017/2/12）

report 1 「□□□×低炭素×地域協働」をテーマに 平成28年度第3回京都府地球温暖化防止活動推進員研修を実施

［北部会場での報告の様子］

1月14日（土）と15日（日）に、第3回地球温暖化防止活動推進員研修を実施しました。14日（土）は北部会場（福知山市）で7名、15日（日）は南部会場（京都市）で41名の参加がありました。

第3回の研修のテーマは、□□□×低炭素の活動を知るというものです。両会場共通で、農業×再生可能エネルギー×低炭素の事例として、亀岡市の「亀岡マイナスカーボンプロジェクト」について、亀岡市生涯学習部長の田中秀門様からお話を伺いました。さらに北部会場では、宮津市における市民共同発電所や環境イベントの取組の事例を紹介。みやづ環の地域づくり推進ネットワーク代表の大村和利様より報告頂きました。南部会場では城陽市における市民共同発電所や省エネ節電所を広げる勉強会開催の事例を紹介。市民共同発電をひろげる城陽の会事務局長の古家野辰也様より報告頂きました。

report 2 京都再エネコンシェルジュ、認証されました！

［認証式の様子］

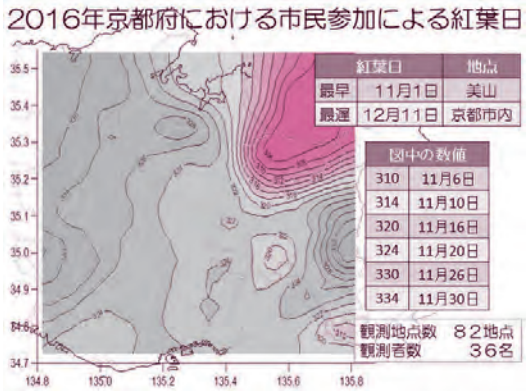
家庭向け再エネ関係の事業者（建築士、工務店、電器店）を京都府が認証する京都再エネコンシェルジュの第1回認証式が2月9日に行われました。この日、認証されたのは36名です。3月末までに約150名が認証される予定です。再エネを導入される際は、京都再エネコンシェルジュのいるお店をご利用ください。

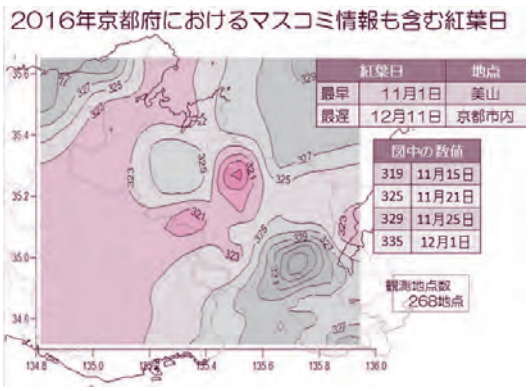
report 3 2016年秋・カエデ紅葉日調査の結果をご報告します

昨年秋に実施したカエデ紅葉日調査にご協力くださったのは36名（82地点）でした。みなさまからお送りいただいたデータをもとに、増田啓子先生（龍谷大学名誉教授）に2016年のカエデの紅葉の動向について分析していただきました。

美山などでは早い時期から最低気温が8℃を下回り、紅葉も例年になく早く始まりましたが、その後の暖かさで長い期間紅葉していました。

京都市内でも、見ごろである30%の紅葉から紅葉日までが長く、早く紅葉した葉が散り始める一方、まだ緑の葉もたくさん残っているような木が多かったようです。12月終わりでもまだ青々している葉や、紅葉しないまま枯れている葉なども見られました。





new

新しい掛け軸できました！

貸出できます。ぜひご活用ください。

「温暖化入門掛け軸（布製）」（パリ協定・COOL CHOICE ほか） 4枚セット

縦155センチ、幅80センチの布製、掛け軸型の展示物。
巻いて運べるので便利です。

＜内容＞

今後の気温上昇予測 選択によって未来は変わる！
上昇する気温、溶けゆく氷河 いままさに進行する地球温暖化
気温上昇を1.5～2℃に抑える ＝排出量実質0へ（パリ協定）
COOL CHOICE あなたが選べば未来は変わる 地域はもっと元気になる

他にも貸出できる環境学習教材があります。
詳しくは当センターのホームページ、またはお電話でお問合せください。

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うぉーみんぐ」
（平成 29 年春号　平成 29 年 3 月発行（年 4 回発行））

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター
（特定非営利活動法人　京都地球温暖化防止府民会議）
理事長：郡嶌 孝
〒 604-8417　京都市中京区西ノ京内畑町 41 番 3
TEL：075-803-1128　FAX：075-803-1130
URL：http://www.kcfca.or.jp　E-mail：center@kcfca.or.jp
Facebook：https://www.facebook.com/kcfca
編集：木原浩貴　川手光春　西澤浩美　浅井薫　三枝剛　河田理恵子
根木よしみ　根岸哲生

法人の活動を支えてくださる会員を募集しています！
年度会費　正会員（個人）：2,000 円　正会員（団体）：3,000 円
準会員（個人）：2,000 円　準会員（団体）：3,000 円
賛助会員：10,000 円
詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

この印刷物は、古紙配合率 100%の再生紙に、植物油インキで、風力発電による自然エネルギーを使って印刷しています。